

# 平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニシン

学名 *Clupea pallasii*

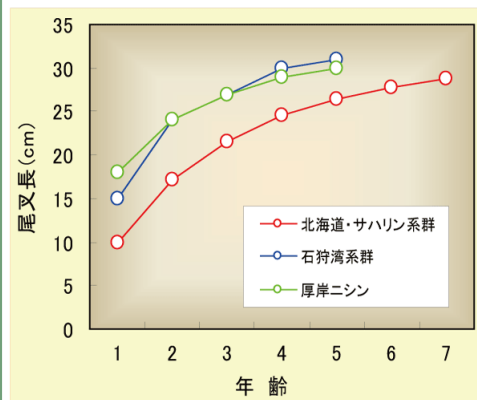
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 6～18歳  
成熟開始年齢: 2歳(石狩湾系群、厚岸ニシン)、4歳(50%成熟年齢:北海道・サハリン系群)  
産卵期・産卵場: 1月～5月上旬  
索餌期・索餌場: 北海道全域  
食性: カイアシ類、端脚類、オキアミ類、魚類(卵・仔稚魚を含む)  
捕食者: 不明

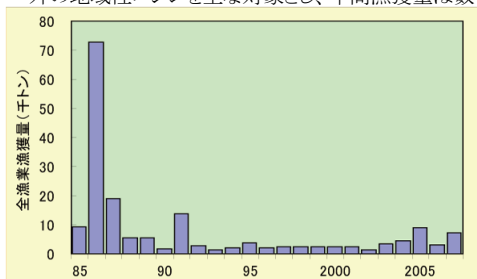


## 漁業の特徴

ニシンは沖合底びき網漁業(沖底)や、刺網などの沿岸漁業によって漁獲されている。沖底では、日本海で秋～冬季、オホーツク海で周年、太平洋岸で秋～春季に漁獲されている。沿岸漁業では、石狩湾以北の日本海沿岸、オホーツク海の枝幸、雄武、網走周辺と、太平洋岸の風連湖、厚岸湾・湖、湧洞沼、噴火湾沿岸で漁獲されている。それぞれ、時期と場所によって、成魚、未成魚や産卵群、索餌群など漁獲の対象が異なっている。

## 漁獲の動向

北海道・サハリン系群を主な漁獲対象として、1897年に97万トン記録したニシンの漁獲量は、増減を繰り返しながらも減少の一途をたどり、1955年以降ごく低い水準で推移している。1983年と1988年に、北海道・サハリン系群とみられる豊度の高い年級が発生したが、資源の回復にはつながらなかった。近年のニシン漁業は、北海道・サハリン系群以外の地域性ニシンを主な対象とし、年間漁獲量は数千トンの水準にある。



## 資源評価法

北海道のニシンは、北海道・サハリン系群の他に、テルペニア系群、石狩湾系群、湖沼性ニシンが混在している。さらに、全域を通じて共通の努力量の指標となるものもなく、CPUEの算出も困難であることから、北海道全域におけるニシンの資源評価は、漁獲量の動向を基に行った。

## 資源状態

資源水準は過去23年間(1985～2007年)における漁獲量の最高値72,729トン(1986年)と最低値1,314トン(1993年)の間を三等分し、高・中・低位とすると、2007年の漁獲量7,226トンは、1,314～25,119トンの低水準に属する。また、資源動向は過去5年間(2003～2007年)の漁獲量の動向から、横ばいと判断した。



## 管理方策

北海道のニシン漁業は北海道・サハリン系群の資源量に大きく左右され、この系群の増加なくしては過去のような数十万トン規模の漁獲は期待できない。現在、北海道・サハリン系群が、長周期の資源変動の底の部分にあるとすると、資源の絶滅を防ぐことが管理目標としてあげられる。北海道・サハリン系群の資源水準が非常に低下した1955年以降において、1980年代に卓越年級群が2回発生しているが、若齢時に漁獲が集中したこともあり、これらの年級群による資源の回復にはつながらなかったと考えられている。今後は、卓越年級群が発生した場合、漁獲制限などを実施して、その年級群による再生産を確実にする必要があると考えられる。

|          | 2009年漁獲量 | 管理基準 | F値 | 漁獲割合 |
|----------|----------|------|----|------|
| ABClimit | —        | —    | —  | —    |
| ABClimit | —        | —    | —  | —    |

## 資源評価のまとめ

- 北海道のニシン漁業を支えた北海道・サハリン系群の来遊が見られなくなった1955年以降、漁獲量は数千トンと極めて低い水準で推移している

- 資源水準は、最近23年間の漁獲量から低位と判断した。また、資源動向は、最近5年間の漁獲量の推移から横ばいと判断した

管理方策のまとめ

- 北海道のニシン漁獲を左右する北海道・サハリン系群が、現在長周期の資源変動の底の部分にあるとすると、資源の絶滅を防ぐことが管理目標としてあげられる
- 今後、北海道・サハリン系群において卓越年級群が出現した場合には、これを保護して再生産の確保を図る必要がある

資源評価は毎年更新されます。